

年頭のごあいさつ

New Year's greetings 2026

穴水町長

吉村
光輝



新しい年を迎えるにあたり、皆様に謹んでごあいさつを申し上げます。

能登半島全域、そして穴水町にも甚大な被害をもたらした令和6年能登半島地震の発生から2度目の新年を迎えました。あらためて、犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた皆様方に対しまして心よりお見舞い申し上げます。

町内ではいまだ420戸、960人を超える方々が応急仮設住宅、みなし仮設住宅に入居され、不自由な生活を強いられている状況にあります。一方で、被害のあった住宅等の公費解体については概ね完了し、住宅をなくされた方々も徐々に自力再建へと歩み始めておられます。

そのような状況の中、この度の地震で被害に遭われた皆様が、再び安心して、新しい生活を始めるためのお住まいとして、「復興公営住宅」の建設に取りかかりました。入居を希望する皆様、全ての世帯分を確保すべく、また、できるだけ早い建設に向け準備を進めております。この震災により、住宅を失い、自立再建の難しい被災された皆様方には一日も早く、元気でふれあい、そして安らぎのある暮らしができるような住居環境を提供したいと考えております。

さて、私が令和4年2月に町長として就任し、町政の舵取りを預からせていただいてから、早いもので最終任期の4年を終えようとしています。選挙公約の1つであった「町民と協同で考える穴水町に」を実現するための「未来づくり会議」は、震災後も「復興未来づくり会議」として引き続き開催し、小学生の皆さんから高齢者まで、多くのご意見やご提言をいただきました。また、県内初となる「保育費や学校給食費の完全無償化」や、こども達がのびのびと遊べる「児童公園の再整備」、県内で最も手厚い「出産祝金」の支給など、子育てに関する支援と環境づくり、子育て世代の負担軽減の実現などに取り組んでまいりました。

今は、この未曾有の災害から震災前の状況に復旧することに全力を注いでおりますが、町の復旧・復興は、これまで本町が経験したことのない長い険しい道のりになります。今後とも、皆様の声をしっかりと受け止め、国や県、関係機関などからのご支援も頂きながら、復興計画で掲げる「みんなで創ろう 未来のあなみず」をスローガンとして、一日も早い、「災害復旧」と「被災者の生活と生業の再建」に加え、復興計画で掲げる「災害に強いまちづくり」、「地域コミュニティとなりわいの再生」、「魅力ある子育てと教育の環境づくり」、「奥能登の玄関口再生」の4つのシンボルプロジェクトを中心に、未来ある町全体の「魅力ある創造的復興」に向け、10年後にも住みたい、住み続けられる穴水町を目指して、総力を挙げて取り組んでまいりますので、町民の皆様方には、より一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びになりますが、新年の門出にあたり、皆様方のご健勝とご多幸を、心からお祈り申し上げまして、年頭のごあいさつといたします。